

金河眺望（「横浜開港絵巻」）
嘉永七甲寅春三月（一八五四年）



開国開港一五〇周年

資料解説の一部に疑問が寄せられたので、指摘の内容を調査するあいだ、記事を一時削除します。

展示を終えて

古文書にみるかながわの産業

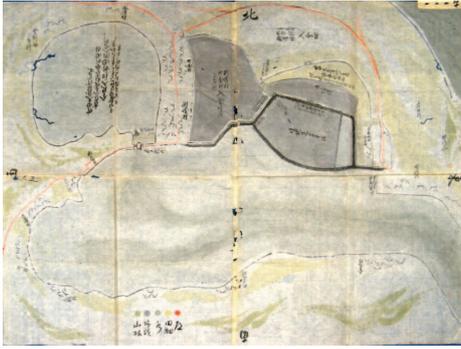
― 生業（なりわい）から江戸時代を考える ―

神奈川開港・開国一五〇周年記念プレ展示

異国船の渡来と県内の動き

― 黒船騒動顛末記 ―

開催期間 平成二十二年一月二二日～三月八日



寛政九年武州久良岐郡泥亀新田、同入江新田絵図（泥亀新田文書）

今回の企画展示「古文書にみるかながわの産業 生業（なりわい）」から江戸時代を考える「では、江戸期に県内で生活していた人々の暮らしぶりを、日々の生業から再現してみました。

神奈川は東と南を海に、北と西を

山に囲まれた自然豊かな県です。この県域の産業や産物を海・山・里の三つの地域にわけて展示しました。

「第一章 海の幸」では漁業を生業とする漁村の暮らしとともに、製塩や海苔の養殖といった海の恵に由来する産物なども紹介しました。

「第二章 山の幸」は炭焼・木材の伐採や漆、櫨（実から蠟をとる）の栽培、養蚕など山村に多くみられる産業の実態を古文書から探ってみました。

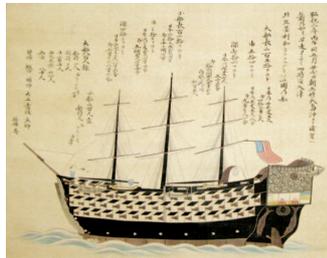
「第三章 里の恵」では、一章・二章で紹介しきれなかった酒造や絞油、水車に関係する資料を見ていただきました。また、村絵図も多数展示しました。江戸期の村の様子がおわかりいただけましたでしょうか。また二〇〇九年が神奈川（横浜）

ミニ展示を終えて

開国と地域

開催期間 一月一〇日～三月四日

開港一五〇周年を迎える記念の年であることから、「異国船の渡来と神奈川の動き 黒船来航顛末記」として、プレ展示を行いました。このなかで神奈川近海に渡来した異国船の絵を多数紹介しました。それぞれの特徴をうまく捕らえて描かれており、当時の人がどこに注目していたかがよくわかります。右は「米艦渡来浦賀之図」から米船メルカドル号（帆船）、左は「金河奇勝」から米艦スエスハンナ号（サスケハンナ 蒸気船）です。メルカドル号の側面には砲門が多数描かれています。この船は弘化二（一八四五）年に日本人漂流民引渡しのため浦賀に來航しました。サスケハンナ号は安政五（一八五三）年浦賀に來航したペリー艦隊の内の一隻です。



来年度はいよいよ一五〇周年本番です。当館でもメモリアルイベントを企画しております。お楽しみに。



この中には、沿岸警護の大通りに備えての街道整備や、米穀値段の安定、自警による治安の維持など、幕府が村々に対して出した触れが記されています。

この資料は、嘉永七年（安政元年一八五四）、二度目のアメリカ東インド艦隊來航に備えて出された、取締りの請書です。

平成一〇年度第五回のミニ展示は、来年度の開港一五〇年に向けて、その前段階となる資料として、当館に寄託されている武蔵国都筑郡上川井村 中野家文書「異国船渡来二付御取締御請書」を紹介しました。

ミニ展示を終えて

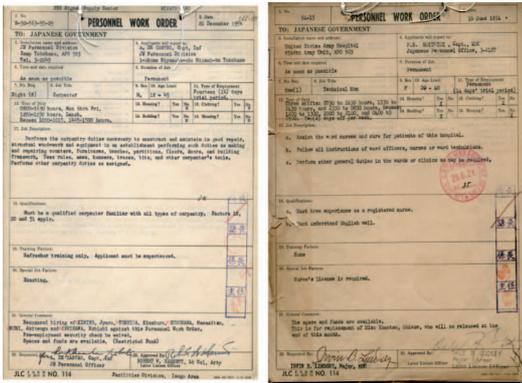
基地ではたらく人々をめぐって

開催期間 平成二〇年十一月九日〜平成二一年一月七日

神奈川県には今なお15の米軍基地が存在し、施設の数では全国第三位、基地従業員の数では沖縄県をわずかながら抜いて全国一位の九、〇七〇人にのぼっています。ところがこれまでの基地問題は、騒音やジェット機の墜落など「基地対策」として捉えられることが多く、そこで働く人々についてはあまり語られてきませんでした。

そこで今回のミニ展示では、駐留軍労働者にスポットを当て、かながわの渉外労務政策に関する資料を紹介しました。

終戦による連合国軍の進駐に伴い本県での進駐軍（講和条約後は駐留軍）への労務提供が始まりましたが、この労務提供を含む渉外労務事務は、国からの委任事務として、横浜・横須賀などの渉外労務管理事務所が中心となって行われました。渉外労務管理事務所は、駐留軍からの労務要求に基づき希望者を募集しました。報酬は当初日給でしたが後に月給に逐次改められ、職務や能力によっては語学加給なども行われました。



PERSONNER WORK ORDER (求人票)

しかし一九五〇年の朝鮮戦争勃発により増大した従業員は、その後のアメリカ国防予算の削減、施設の整理統合により、大幅な人員整理が行われます。これに対して渉外労務管理事務所では、再就職先の斡旋や職業訓練等を行い対応しましたが、切実な従業員の姿が、横浜市長の救済要求や労働協議会の資料などから窺えます。

これらの渉外労務事務は、二〇〇二年から県の手を離れて、国及び独立行政法人へ移管されました。

所蔵資料紹介

『テクノコンプレックスかながわ 頭脳センター構想の軌跡』
(株)ぎょうせい 長洲一二(編著)
(K 500-0-6-a)

昭和五十年四月にスタートした長洲県政の中で特筆すべきものの一つが商工行政です。

従来は中小企業金融などが中心であった商工行政ですが、「地方の時代」を掲げた長洲一二知事は、昭和五十三年に「頭脳センター構想」を提唱しました。

昭和五十七年三月に発行された『頭脳センター構想実現のために』(COO-BOOK)によれば、雇用や生産の構造の変化、神奈川の産業構造の変化を受け、首都圏にある神奈川県という先進性を生かして、高付加価値の製品を生産する都市型産業に移行し、新しい質を持った頭脳型の産業構造を形成していくため、県内の各地域に研究開発機能を集積してその活性化と拡大を図るとともに、県内に蓄積された研究者、技術者、大学、研究機関の相互及び



企業との間に交流促進のネットワークを組織して、研究開発の風土づくりと活性化を図り、県内の企業の技術開発力を高めようとするものです。平成三年に発行されたこの資料の中では、神奈川科学技術アカデミー、かながわサイエンスパーク、湘南国際村、厚木森の里などの整備や、神奈川県研究開発型企業連絡会議の設置などの諸施策を有識者と県の担当者との対談などにより振り返っています。また、この構想の中で、みなとみらい21や横須賀リサーチパークなどの産業立地も進みました。このような頭脳センター構想による諸施策を踏まえ、長洲知事が打ち出した新しいコンセプトが「テクノコンプレックスかながわ」と言えるでしょう。

神奈川県立公文書館では、これらの商工行政、産業立地の諸施策の公文書なども保存しています。

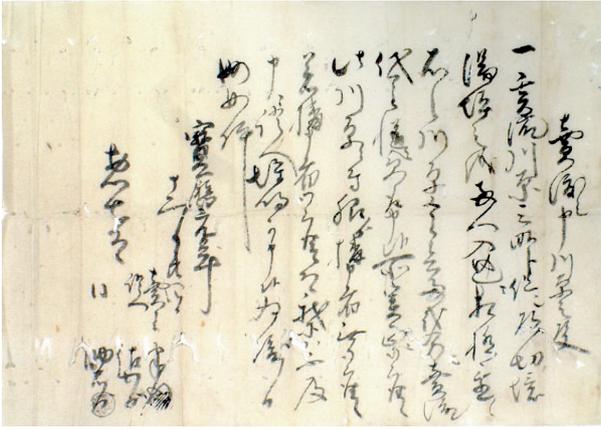
● 古文書資料

八亀家文書

当家は、江戸中期から「箱根屋」として温泉宿を経営されていました。昭和に入ってから、武雄氏が湯河原町長、夫人が婦人会長を務めました。このようなことから所蔵文書は、主に温泉旅館経営・湯河原町政・愛国婦人会関係で構成されています。資料の年代は、宝暦元年（一七五一）～昭和五四年（一九七九）。

この中から、川原における湯坪（壺）の存在と川原売買双方の湯壺使用を取り決めた古文書を紹介します。温泉場「湯河原」の名にちなむ史料です。

八亀信氏寄託資料



〔売渡シ申川原之事〕川原譲渡証文

● 表紙写真解説

金河（神奈川）眺望 （山口コレクション）

南宗画（南画）家、春木南溟（一七九五～一八七八）が描いた横浜から本牧方面を眺めた風景。陸地の中央部分が現在の神奈川県庁付近。海上の船は、ペリー（東インド艦隊司令長官）艦隊。嘉永七年三月、幕府は米国遣日特使ペリーと神奈川条約（日米和親条約）を締結調印しました。

✧ 平成二十一年度行事のご案内 ✧

✧ 展示のご案内 ✧

- ★ **通常展示**
「資料にみる神奈川の歴史」
五月二〇日(水)～九月一三日(日)
- ★ **特別展示**
「神奈川開港・開国一五〇周年
メモリアルイベント」
「横浜開港と神奈川」
六月二日(火)～六月三〇日(火)
- ★ **企画展示**
「かながわの女性」
九月二五日(金)～十一月二二日(日)
- 「地震・洪水・火事・噴火」
一月二一日(木)～三月七日(日)
- ★ **ミニ展示**
「飯田家文書にみる近世の北綱島村」
五月九日(土)～七月九日(木)

資料解説の一部に疑問が寄せられたので、指摘の内容を調査するあいだ記事を一時削除します。

- 「産業報国会の時代」
七月二二日(日)～九月九日(水)
- 「大山詣と石尊大権現」
九月一二日(土)～十一月五日(木)
- 「開発と自然保護をめぐる」
十一月八日(日)～一月六日(水)
- 「飯田家文書にみる地方名望家」
一月九日(土)～三月三日(水)
- 「都市計画のはじまり」
三月六日(土)～三月三一日(水)
- ★ **常設展示**
四月一六日(木)～五月二四日(日)
- 七月七日(火)～三月三一日(水)
- 「県立愛林青少年訓練所」
「戦後住宅行政のはじまり」
「戸長役場の仕事」
「朝鮮通信使と神奈川」
「古文書の修復」

✧ 講座のご案内 ✧

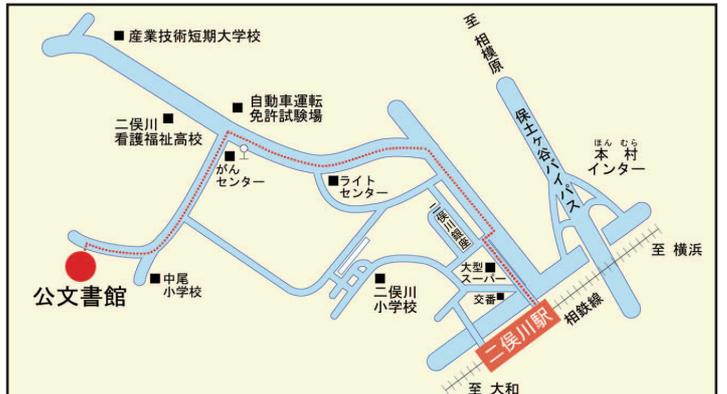
- 古文書解説中級講座（定員一四〇名）
五月二四日(日)～六月二一日(日)の各日曜日（全五回）
- 古文書解説上級講座（定員一四〇名）
一〇月十一日(日)～一〇月二五日(日)の各日曜日（全三回）
- 古文書解説入門一日講座（定員五〇名）
一二月六日(日)（予定）
- 古文書解説入門講座（定員一四〇名）
二月七日(日)～三月十四日(日)の各日曜日（全六回）

✧ 講演会のご案内 ✧

- 神奈川開港・開国一五〇周年
メモリアルイベント
「横浜開港と明治維新」
講師 奥田 晴樹氏
（金沢大学教授）
六月七日(日) 十時～十二時

✧ 館利用のご案内 ✧

（利用時間）
閲覧室↓午前九時～午後五時
会議室↓午前九時～午後九時
（利用方法）
閲覧室↓開架されている資料は自由に閲覧できます。また、書庫内の資料は受付に請求してください。



電車の場合 相鉄線「二俣川駅」（横浜駅から急行で11分）下車／徒歩17分又は相鉄バス「運転試験場循環」行きで「運転試験場」下車徒歩3分
車の場合 「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分

神奈川県立公文書館だより（第二号）

平成二十二年三月二七日発行

編集発行 神奈川県立公文書館

〒二四一―〇八一五

横浜市中区中尾一―六―一

電話 〇四五（三六四） 四四五六